

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 成瀬（縄田）麻美 |
| 学位の種類 | 博士（コーチング学） |
| 学位記番号 | 博乙第 2936 号 |
| 学位授与年月 | 令和元年9月25日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第2項該当 |
| 審査研究科 | 人間総合科学研究科 |
| 学位論文題目 | 表現遊びの即興時に現れる児童の模倣の動き —分類・評価のための新たな観点の提示— |

| | | | |
|----|----------|------------|-------|
| 主査 | 筑波大学教授 | 博士（体育科学） | 中川 昭 |
| 副査 | 筑波大学教授 | 博士（コーチング学） | 佐野 淳 |
| 副査 | 筑波大学准教授 | | 寺山 由美 |
| 副査 | 日本体育大学教授 | 博士（教育学） | 岡出 美則 |

論文の内容の要旨

成瀬氏の博士学位論文は、小学校2年生の表現遊びに着目し、児童から現れる模倣の動きを分類すること、そして分類・評価するための観点を新たに得ることを目的としたものである。その要旨は以下の通りである。

第1章で著者は、本論文の研究背景と目的を述べ、関連研究の概観を先行研究に基づいてまとめている。さらに、本論文の目的を達成するための2つの研究課題について説明している。研究課題Ⅰは、「児童の表現遊びで現れる模倣の動きを舞踊専門家により質的に分類し、その種類を明らかにすること」とし、研究課題Ⅱは「児童の表現遊びで現れる模倣の動きを分類・評価するための具体的な観点を新たに得ること」としている。さらに研究課題Ⅱでは2つの下位課題、すなわち「研究課題Ⅱ-1：児童の表現遊びで現れる模倣の動きに関する舞踊専門家による質的な分類・評価観点を特定すること」と「研究課題Ⅱ-2：舞踊専門家により質的に分類された模倣の動きについて動作解析を用いた量的な分析を行うことにより、児童の表現遊びで現れる模倣の動きに関するより具体的な分類・評価観点を獲得すること」を設定している。

第2章で著者は、「研究課題Ⅰ：児童の表現遊びで現れる模倣の動きを舞踊専門家により質的に分類し、その種類を明らかにすること」に関する研究内容を述べている。本章では、4校の小学校2年生の児童を対象にして、動物や乗り物の絵カードを提示し児童が即興的にそのものになりきって動く実験を行い、その実験結果から小学校低学年の表現遊びの即興時に現れる模倣の動きを3名の舞踊専

門家が質的に分類することで、模倣の動きの種類を導き出している。その結果、「題材の模倣」と「他者の模倣」の大きく2種類の模倣が現れ、「題材の模倣」では題材の形態のみを模倣している「形骸模倣」、特徴を捉えて大げさに表現している「誇張模倣」、独自のイメージで表現している「オリジナル模倣」の3種類、「他者の模倣」では互いの動きを真似し合っている「相互模倣」、他の児童の動きを自身の動きに取り入れた「反映模倣」の2種類の模倣があることを明らかにしている。

第3章で著者は、「研究課題Ⅱ：児童の表現遊びで現れる模倣の動きを分類・評価するための具体的な観点を新たに得ること」に関する研究内容を述べている。A小学校2年生の児童を対象に行った上記と同様の実験から、まず、児童の表現遊びで現れる模倣の動きについて舞踊専門家による質的な分類・評価観点を特定し（研究課題Ⅱ-1）、次に、舞踊専門家により質的に分類された模倣の動きについて動作解析を用いた量的な分析を行うことにより、児童の表現遊びで現れる模倣の動きに関するより具体的な分類・評価観点を検討している（研究課題Ⅱ-2）。

その結果、「形骸模倣」については、模倣対象の象徴となる特徴を1つのみ捉えて直接的イメージ動作をしていることが質的、量的分析共通して明らかになった点であるとし、質的な分析から身体の外観のみを真似て動いていること、量的な分析から身体の中心部、末端部ともに動きが小さいことを新たな観点として特定している。「誇張模倣」については、模倣対象の象徴となる特徴を2つ以上捉えて直接的イメージ動作をしていることが質的、量的分析共通して明らかになった点であるとし、質的な分析から身体を大げさに動かすこと、量的な分析から身体の中心部からダイナミックに動いており模倣対象の特徴を捉えた質感を表していることを新たな観点として特定している。「オリジナル模倣」については、模倣対象の形態を超えた動きをしており直接的イメージ動作が見られないことが質的、量的分析共通して明らかになった点であるとし、質的な分析から身体全体を使ってスピードの変化、身体や空間のくずしをつけて動いていること、量的な分析から身体の中心部を大きく使っていることを新たな観点として特定している。そして、これらの分析結果をまとめ、外観の象徴的な1つの特徴を捉えて体を部分的に動かし、身体の中心部、末端部ともに動きが小さいのが「形骸模倣」、外観の象徴的な2つ以上の特徴を捉えて身体の中心部を使って動きの質感も捉えながらダイナミックに動いているのが「誇張模倣」、対象の形を超えているが身体全体を使いながら身体の中心部を多様に動かしているのが「オリジナル模倣」としている。

第4章で著者は、それぞれの研究課題に対して得られた知見をまとめて示し、本論文の総括として、舞踊専門家による質的な分析と動作解析を用いた量的な分析により、模倣の動きを観察して分類・評価するための新たな観点を得ることができたと結論している。そして最後に、本論文で得られた知見を教育現場へ活かすための提言を様々な角度から述べている。

審査の結果の要旨

(批評)

学校体育における表現運動・ダンス領域の授業では、児童の動きを適切に観察し評価することが現場の教員、特に舞踊経験の乏しい教員にとって難しい点が問題として挙げられている。本論文は小学校低学年の表現遊びから現れる模倣の動きに焦点を当て、これまで明確にされてこなかった模倣の動きの分類を示すとともに、分類・評価を行うための観点を新たに明示したものであり、教育

現場において教員が直面している問題の解決に価値ある示唆を与える研究として高く評価できる。ただ、授業の中で児童の模倣の動きを効果的に高めていく指導法を確立するためには、模倣の動きに伴う児童の内面を明らかにする必要があるが、この点の検討については本論文では行われておらず、今後の研究の進展に期待したい。

令和元年8月3日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

なお、学力の確認は、人間総合科学研究科学位論文審査等実施細則第11条を適用し免除とした。よって、著者は博士（コーチング学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。